

# The Three Little Elin



**R18**  
\* for \*  
**ADULT**  
**(ONLY)**



# さんびきのこえりーん



昔々、さんびぎの子エリーンを養っていた  
ポポリがいました。

ポポリは潤沢な財力を振りかざし  
エリーンたちをはべらせていましたが

うっかり手を出してしまったソシヤゲに  
ハマってしまい、いつの間にか  
居なくなってしまうました。



養ってくれる人がいなくなってしまうたエリーンたちは  
仕方なく独り立ちすることになりました。

しかしエリーンたちは温室育ちの世間知らず。

無事に新たな住処を見つけることができるのでしょうか。

最初のエリーンが街外れの道を歩いていると、  
ワラの束を持った男に出会いました。



暖かな寝床にちよつど良いと思つたエリーンは  
迷わず声をかけました。  
「ねえねえおじさん そのワラをちよつだいよ」  
いぶかしげにエリーンを見ていた男でしたが  
はたと閃いた様子で応えました。  
「良いけど…少しだけおじさんのお願い  
きいてもらえないかな？」  
「うん、いいよ」



明らかにいかがわしい視線を  
向ける男でしたが  
世間知らずのエリーンは二つ返事で  
快諾してしまうのでした。



エリンちゃんのカラダ  
すごく良いにおいするよ  
ワラはちゃんとたくさんあげるから  
もつといっぱい嗅がせてねっ

そっ  
そちがうのお…  
おまたじゃ…っないのお…

くすぐったいっよお  
それに…なにこれえ  
お胸のおくが…あつい…

それは大変だ！  
おじさんが見てあげるから  
ぬぎぬぎしようねっ

でもここ  
こんなにグツシヨリ  
濡れてるよ？  
それに…  
なんだかしよっぱい  
味がするね

あれ…  
もしかし  
ちがうっ  
ちがうもん！  
おもらしなんか…  
して…ないもん

か

ぬぎ

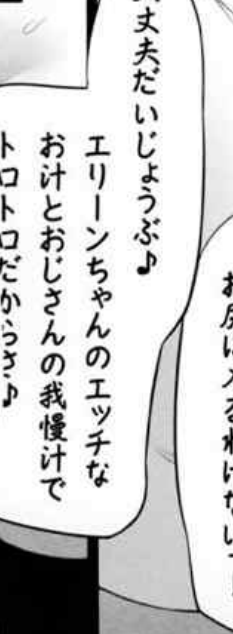
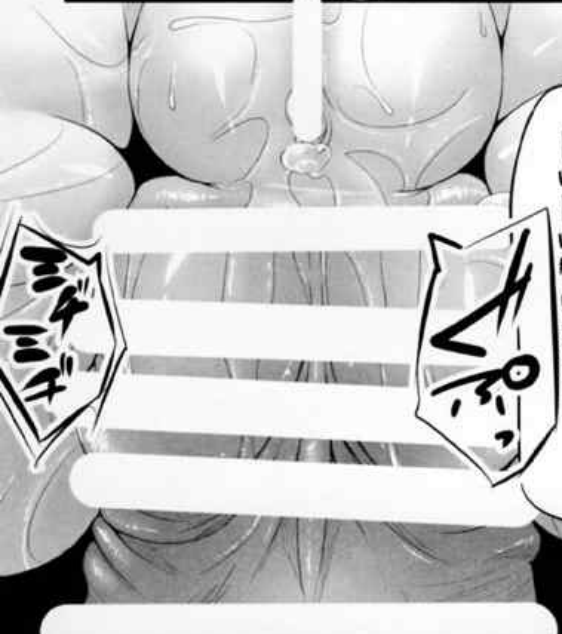
ぬぎ

ぬぎ

ぬぎ

ぬぎ

ぬぎ





あうっ...  
だめえ...  
お尻のあなっ  
ヤケド...しちゃう  
あうっ...  
あうっ...



あうっ...  
だめえやだやだ...  
あうっ...  
あうっ...

うわっ  
ケツまんこ狭っ!

ほーら  
ゆつくり入っていつちゃうぞー

つすこいねエリーちゃん  
こんな小さな体で  
おじさんのおちんちん  
啜えこんじやったね



これならもつと奥まで挿入れても  
大丈夫だよね?  
おちんちん根元までごっくん  
してくれるよ...ねっ!



あうっ...  
あうっ...  
あうっ...





ひゅん  
やらあそんなう  
うごいちやう  
んんん

んんん  
おひり  
めくれちゃ  
んんん

わりっ……んっ  
これっ  
気持ちよすぎて  
止まんねえわっ!

んんん  
ダメっ  
やだあ……  
でちやうっ  
んんん

うう……!  
俺も……でちやうっ!!

んんん  
あんな  
あんな  
あんな  
あんな  
あんな

ほんとに……  
でちやうたあ……  
おもしろいしちやうたあ……

んんん  
んんん  
んんん  
んんん  
んんん

んんん

2番目のエリーンはシダを抱えた男に出会いました。午後の読書タイムに最適な庇が作れると考えたエリーンは、

見知らぬ男性に声をかけることにほんの少し躊躇しましたが思い切ったずねてみました。

「すみませんおじさま

そのシダを分けていただけませんか？」

男はエリーンの事を値踏みするようにゆっくりと視線を巡らせると、

口の端でニヤリと笑いました。

「じゃあ向こうの小屋にもう少しあるから

それも持つていくといいよ」

それを聞いたエリーンは大喜びです。

「本当ですか!?  
ありがとうございます」

見知らずのエリーンの願いを

快く聞き入れてくれたことに感激した

エリーンは、先ほどの不安も忘れてしまい嬉しそうに尻尾を振りながら

男の後を歩くのでした。

ふと気がつくとも暗闇の部屋にいました...

なんだか記憶も曖昧で  
体も思うように動かさません。

ん.....  
あれ...ここは.....

おっ  
やっと気がついたな

やだ...  
やめてください...っ!  
こないでっ!

ホイホイついて来た  
おじよーちゃんが悪いんだぜ?

そんな事言わずにさあ  
さあたっぶり愉しもうぜ

そ、そこはあ...  
...んはあう

ははあ  
さてはおじよーちゃん  
ここ弄るの大好きなんだろ?

...  
ちがい...ますっ  
そんなこと...して  
...っません!

ふへへっ  
その顔たまんねえなあ

あなたはいつたい...  
何でこんなこと...っ!?

おいおい  
嘘はよくねえな  
じゃなきゃこんな  
柔らかいわけないだろ?





そおおら！  
またたつぷり注いでやるからな！！

んんんん  
これ以上はあ…っ  
もう…はいりまっ

やあやあ  
ああやあ  
あやあ

んお…

あちゆいのお…っ  
ドクドクってえ

んんんん  
んんんん  
んんんん

んんんん  
んんんん  
んんんん

もう…おひり  
しめらんにやい…

とまんない…  
よお…



る番目のエリーソンは  
自今で家を造るなんてイヤでした。

どうしようかと悩んでいると  
二人組みのおじさんに  
声をかけられたのでした。



ナンパでした。



「そうだ  
このおじさんたちに  
養ってもらおう！」  
そう考えたエリーソンは  
おじさんを誘惑する事に  
しました。

「あのねおじさん  
それより…私のお願ひ聞いて  
くれたら、もっとイイコト  
してあげるんだけどさっ」

エリーソンの誘惑に  
抗う術などあるはずもなく  
おじさんたちはただただ  
首を縦に振り続けたのでした。





ちやほほ

わー  
あー



うふふ

そんなに焦らなくても  
これからいっばいしてあげるのに

その代わり  
ちゃんとお小遣い  
ちょうだいね



じゃあまず  
こちのおちんちんからね

ほーけいおちんちん  
かーわい

ちやほほ

とろろ



ちやほほ

あーん  
ぽく





おお…  
エリーちゃんのおまんこ  
すげーきれい…

んお…おいしいっ  
おいしいっ美味っ!

いくらでも…っむほ  
出てきてっ♡  
すこい…んじゅるっ!

…っ…

…っ…

もうこんなに濡れて…  
いただきますっ!

ごっごめんよ  
でも…もう俺  
我慢できないよ…っ!

もう…がつつきすぎ!

おいするいぞっ!

だいじょーぶ  
ちゃんとな二人とも  
気持ちよくしてあげるから

んもう…んふふ  
しょうがないなあ♪

んはあ…ほら  
エリーのおまんこで  
大人ちゃん  
飲み込んでっやうよお…

おまんこ



おはぁ...

おつきご...ん♡  
奥までロソソソってえ  
とどいちゃったあ↓

うう...う  
エリンちゃんの  
おまんこ狭っ!

ほおら...  
はいってへ...うまお

全部は入らないけど  
この密着感っ!  
たままないよお...

ほらあ  
おじさんはこっち

エリンちゃんの...  
お尻...うアナル...ケツマンコ...

わたしのお尻...  
おかして



こうして  
三匹の子エリーンたちは


養ってくれる優しい  
おじさんたちに出会い

いつまでも幸せに  
暮らしていきたいとさ

めでたしめでたし

ごめんなさいっかページ数間違えたので前回のらくがき本で気に入った忍者アバターなみつ編みちゃんを犯しておきます





どうもこんにちは、きっちゃんに申します。  
ごめんなさいエリーちゃんの本やっとなおせました。  
お待たせしてしまった布々ほんですいませんでした。  
しかも最後の最後で1ページ足りない大ショックな出来事までorz  
毎度の事ではありますがほんご申し訳ない…。  
さて次回！  
次は褐色！褐色ケモ耳の娘！  
もちろんお尻蒔絵でお送りいたします！  
そんなニッチな内容になるでしょうけども  
よかったらまた見てやってください。  
ありがとうございました。

\* 奥付 \*

The Three Little Elin  
発行日: 2014年12月30日

著者: Kitchen\*Channel  
きっちゃん

e-mail: chankichi@capriccio.skr.jp

Pixiv ID: 1540899

印刷: プリントマウス様





**-The Three Little Elin-**  
**Presented by Kitchen\*Channel**  
**<This book is for ADULT ONLY!!>**

**※18歳未満の方はこの本を購入または閲覧することが出来ません**